
三人のHawk

チョボロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人のHawk

【Nコード】

N5009BA

【作者名】

チヨボロン

【あらすじ】

俺はなんでも屋をやっている高校生21歳だ（笑）高校生ライフサイコー！っと思いつながら高校最後の修学旅行で俺は事故に合う、俺は死んだ・・・っと思いきや俺は森の中で倒れていた！そして物語は動き出す！！

プロローグ（前書き）

この小説は受験生であるにもかかわらず暇な中学生が書いたものです
言葉がなっていないかもしれませんが

見てくれたら幸いです

そして世界を救うのはなんでも屋！？を改良したバージョンです

ではどうぞ「三人のH a w k」

プロローグ

？「ダウト！！」

親友が出した7の次のカードで俺は叫んだ！

俺は赤城良

あかぎりよう

高校3年生なのに18歳と年齢をだまして高校生をやっている21歳だ

出身地は京都、なんでも屋をやっている男だ！

なんでも屋って何ってか？

ひとつは銀 に憧れたからだ

仕事は簡単、銀 と一緒だw

これは秘密で独自でやっている、学校にバレないように・・・
最近の大きな仕事は最近勢力を伸ばしているヤクザの組織を潰した
ことかな

1万人位軽いつて（笑）
なぜって？

簡単だよ俺の一家が我流の剣術（二刀流赤木流）をやっている
それで小学生からありえないくらいの修行をしたからだ
どんな修行って？

想像にお任せします

そして俺は「自由の赤い翼」と呼ばれている

今日は修学旅行で、東京に行く
と言っても東京にいて、バスにいる
いいだろ？（ー）ニヤリ

俺は高校生ライフを楽しんでいる
今俺はバスのなかで親友2人とダウトをやっている
これは盛り上がる

親友B「残念、この30枚全部君のものね」

そういつて俺にみせたカードを見せた
8だった・・・

こいつ（親友B）は俺の親友、相澤直人
あいざわなおひと

直人は俺と一緒になんでも屋をやっていて俺のサポートをしてくれる
一様柔道をやっていて多分持たれたら誰でも負けるくらい強い
歳は俺と一緒にだ「投げる軍師」と呼ばれている

はつきり言つてカッコ悪いので多くの人は「軍師」とよんでいる
例にヤクザの制圧で人数、地図、脱出経路などなど役に立っている
こいつと話すようになった理由は依頼で助けたら入ってくれた

良「30枚だと・・・嘘だろ？」

30枚って結構な量だぞ
トランプ半数越してるし・・・

直人「ほんとだよ（ー）ニヤリ」

良「クソが！！！！」

親友A「お前つていつも数が溜まったあと外すよな」

こいつ（親友A）は俺の親友、大原雅之

おおはらまさゆき

なんでも屋と一緒にしている

雅之は昔、海外で親と戦争的なサバイバルな生活をしていたため
自衛隊の心得をもっていて、銃や爆弾使っている

例に、俺が前線で戦っているとき、援護射撃をしてくれたり（もちろん死んでいません）

ヤクザの組織の建物を破壊してくれたりする

こいつは「圏外スナイパー」とか「ボムキラー」などとカッコイ名前が多い

こいつも直人と一緒に依頼で助けたら仲間になってくれた

雅之「まあ・・・どんまい、直人ナイス（ヒソヒソ）・・・」
グッ！」

良「なに直人に「（・・・）bグッ！」ってしてんだよ！てめは鬼か！」

雅之「鬼だが？」

良「くそおおおお！」

くそ！30枚はきつい俺あと5枚くらいだったのに35枚にちゃったテヘペロ

直人・雅之「「キモイよ」」

良「俺なんか言った！」

直人「あれ？違った？」

雅之「まじで、俺は違ুকはないんだと思つたんだけど・・・」

良「言つてねーよ!」

直人・雅之「「違う違うあっちに逝つたんだよ」」

良「感じ違う!てか、あっちなんだよあっちって」

そついうと二人は右手の甲を左のほつぺに持つて行つて乙女のポーズをとつた

良「逝かねーよ!」

直人・雅之「「なんだ・・・残念・・・」」

良「あんたらは、グルなんか?てかグルだよな?」

直人・雅之「「違う(な)よ!」」

良「おんなじこと言つておんなじタイミングで言われても説得力ねーわ」

はああ・・・

何回ツツコミいれたかわからねえや・・・

良「直ラッシュ、雅ラッシュ、僕もう疲れたよ・・・」

直人・雅之「さようなら（＊　ハー。）ノバイバイ」

良「感動の場面だろ！何勝手にさようならとかいってんの！」

直人「だってパ ラッ ユニ匹もないし」

良「まあそうだけど・・・」

雅之「だいたい、疲れたなら寝てろって」

良「そういう意味で言ったのかよ・・・」

ピンポンパーンポーン

アナウンス「もうそろそろで付きますので荷物を運べるように準備してくださいね」

あ、終わったもうちょっと聞きたかったな

女の人の声好きなんだ・・・

てか声フェチなんだ（笑）

直人・雅之「っと思ってる良がいた・・・」

良「心を読むな！」

雅之「いや声にでたぞ」

マジで？

直人・雅之「うんマジマジ」

良「今絶対言っていないだろ！なんで分かんだよ！」

直人「わかりやすいからに決まってるでしょ！」

良「逆ギレかよ！」

そういうなんの意味もない会話が続いたが、

ドガチャン！・・・バツシャン！

と音を鳴らした

そう、トラックが俺たちが乗っているバスに右から突っ込んできたしかも運が悪く俺たちは橋の十字路（左に行く道がない）に居たぶつかったあと橋から落ちて海に放り出されたのだ・・・

そして俺は死んだのか・・・

プロローグ（後書き）

読んでもらってありがとうございます

いきなりですがアンケートをとります（笑）

アンケートの内容はなんでも屋をやるかどうかということです

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でリリなのに乱入
2、なんでも屋をやって、自由に3人で暮らす話にしてリリなのはあまりかわらない

3、なんでも屋をやらなくて、ゆりかごが出た時危ないと思って乱入

4、なんでも屋をやらなくて、ヴィヴィオを見つけて乱入

5、なんでも屋をやらなくて、次元漂流者で保護されて乱入

登場人物（前書き）

こんかいは主人公の3人を紹介します

登場人物

名前 あかぎりよう
赤城良

性別 男

年齢 21歳

身長 185cmくらい

体重 72kgくらい

顔 戦国バサラの前田慶次みたいなかんじ

声 森田成一

武器 右手 紅刀

左手 炎月刀

身体能力(100max) 体80

力80

守40

回90

速90

知50

魔導士ランク 空SS

能力 魔法変換「炎」

魔力を炎に変換することができる

炎の翼

背中から大きな二つの火の翼が生える

剣術の心得

相手との間合いや気配を感じることができる

好きな

食べ物 甘いもの

時間 自由時間、祭り、喧嘩、昼寝

嫌いな

食べ物 すっぱいもの

時間 暇な時間、待っているとき

称号【自由の赤い翼】

名前 あおざわなおひと
相澤直人

性別 男

年齢 21歳

身長 170cmくらい

体重 60kgくらい

顔 ガンダムwのカトルの髪の色を黒くしたもの

声 小西克幸

武器 メイン 素手

サブ なし

身体能力(100max) 体50

力60

守80

回70

速60
知90

魔導士ランク

総A+

能力 鷹の目

100M範囲を目で見えるものならすべて見ることができる

裸眼記憶

見たものならすべてを覚えることが可能

柔道の心得

相手との間合いや気配がわかる

好きな

食べ物 和風料理

時間 仕事をしているとき

嫌いな

食べ物 なし

時間 仕事がないとき

称号【軍師】

名前	おおはらまさゆき 大原雅之
性別	男
年齢	21歳
身長	180cmくらい
体重	80kgくらい
顔	戦場のヴァルキュリアのフォルディオ・ランツァーにみたい
な感じ	
声	子安武人
武器	メイン スナイパー、爆弾
サブ	ハンドガン
身体能力(100max)	体90
	力70
	守60
	速40
	知60
魔導士ランク	魔AA+
能力	スナイパー
	スナイパーの圏外を撃つことが可能である
野生本能	
	風速や相手との距離、気配を体でわかる
好きな	
	食べ物 洋風料理
	時間 武器に触っているとき
嫌いな	
	食べ物 なし

時間 何もしないとき

称号【圏外スナイパー】

第2章 良ストーリー（前書き）

良が直人と雅之に会うまでのストーリーである

第2章 良ストーリー

良「うゝん・・・」

あれ？

俺死んだんじゃなかった・・・？

確かバスの事故で海に落とされて・・・

そうこう考えてる暇なく俺は目をあけると木がいつぱいだった

良「おゝ周りは木、木、木、青、ん？青！」

なんと後ろに青いカプセルみたいな感じのがいた

良「なにこれ？」

近づいて触ろうとした時だった

ピュン！

良「危！」

なんかオレンジの目みたいなものからこう・・・

そう！レーザービームだ！目からビーム！的な奴が出てきた・・・

ピュンピュンピュンピュン！

良「危な！ちょwまじであぶいから！てかなんで増えてんの！武器！武器ないの！」

よけながら武器を探していると

良「ひゃゝ！あ」

なんと俺の修学旅行に持っていこうとしていたカバンをを発見！
そして俺はそのカバンをとって俺の武器

良「あつた！よかつたゝ紅と炎月があつて」

【紅刀】

刀の刃の部分部分だけ紅色になっている刀だ
切れ味は抜群だ

【炎月刀】

真っ赤ないろの刀

それを手にとつて

良「行くぞ！今から逆転劇を見せてやるよ！」

俺は2本の刀を構えた

良「はああああー！！」

グシャグシャ！

良「そこ！」

ザクッ！

良「はあ！」

ブシュッ！

あつという間に片付けた

てかレーザービーム撃つといてこの弱さはないだろ・・・
今気づいたけどオイルみたいな匂いがする

多分青い奴はロボットだったんだろう

良「はあ終わった終わった、さて・・・」

今気づいたここどこだ？
どうしようか・・・

？「そのひと止まってください」

良「へ？」

いきなりのこととで油断をしていた
声のしたほうからわからず俺は周りを見たが誰もいなかった

良「空耳だな」

そういつて俺は歩こうとしたときだった

ビシ！

良「ん？」

あれ？動けないぞ・・・

てか何か光ってるブレスレット見たいのに捕まってる！

？「おとなしくしてください！」

良「ん？」

飛んでる！すげえ！何回目だろう見た人が飛んでるところ見たの
そついや最近直人が投げ飛ばしてたな・・・
まてまてそんなこと考えている場合ではない
そついやなんでだ？

俺なんか悪いことしたか？

怪しいのはそつちだろ？なんかコスプレ少女が飛んでるし・・・
確かに青いレーザービームを出すロボットを壊してしまったが・・・

？「管理局のものですおとなしくして付いてきてください」

良「管理局？なんだそれ？あ！わかったこの青いロボット管理して
んだな、よしわかった」

そう言つて俺は

良「ふん！」

ブチッ！

光るブレスレットを無理やり外した

？「え・・・バインドが・・・」

良「？」

なんで驚いてんの？結構簡単に壊れたんだが・・・
その前に

良「一旦てったーい！」

走る！俺は全力で！捕まってたまるか！だってあのロボットの仲間
だろ？

絶対危ないし、俺怪しくないもん
だって怪しいじゃん空飛ぶコスプレ少女だぞ？
明らかにあっちの方が怪しいじゃん

？「まってください！」

そういつて俺に光ボールが・・・
ってなんじゃこりゃ！俺に向かって飛んできたぞ！

良「そりゃ！」

ブン！

良「またつまらぬものを切った・・・」

ボールを切ったがあまり手応えがなかった

？「嘘！」

何が嘘なの？もしかして俺が切ったときにあのセリフを言ったから
か？

そんなことを考えている暇はない！

走れメ ス！走るんだ！！

そう言いながら俺は全力で2時間くらい森で少女からのなんかよくわからない攻撃からにげ続け
やっと逃げ切ったあと、街に到着

良「疲れた・・・てかなんだよあれ、めっちゃ危ないじゃん」

そついいながら俺は街をさまよった
俺は他人にここはどこですかというと

住民A「あなた頭大丈夫ですか？」

や

住民B「いい病院してますよ、そこを右に曲がって・・・」

とか

住民C「おじちゃんどっかうったの？」

とか、なんかかわいそうな目で見られました・・・

良「まじでここどこだよ！なんていう無理ゲーだよ！」

と思っっていると

とあるゲームのことをおもいだした

良「そうだ！図書館へいこう！」

と走って図書館を探し見つけたのだが・・・

良「なんだよ！なんて読むんだよこれ！」

管理人A「静かにしてください」

良「すみません・・・」

あゝもうなにがなんだかわからるので

とりあえず図書館の管理人に事情を話翻訳をしてもらいながら
ここの言葉をマスターした

マスターするのに1週間管理人にお世話になった

良「ここなんて国なの？」

管理人A「ここはミッドチルダって言うんだよ」

良「へーそうなんだ・・・」

？「あれ？なんでこんなところに良がいるんだ？」

良「へ？」

そう言っただけ俺は声のした方をみると

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！って一週間しかたっていないんだけどね」

そこにいたのは一週間前に別れた親友たちだった

第2章 良ストーリー（後書き）

見てくれてありがとうございます

次の話は直人と雅之のストーリーです

第3章 直人&雅之ストーリー（前書き）

直人と雅之のストーリーである

第3章 直人&雅之ストーリー

直人「なんでお前が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！って一週間しかたってないんだけどね」

そこにいたのは一週間前に別れた親友たちだった

良「久しぶり」

直人「ああ、一週間ぶりだね、そういやなんで君がここにいるんだい？」

良「実はな、森に遭難している時に空飛ぶ少女に襲われ逃げているとこの街に付いて……」

と俺は一週間あったこと全てを話した

雅之「お前の方は大変だったんだな……」

直人「僕たちはね……」

〽一週間前〽

雅之「知らない空だ……ってあれ？天井はどうしたんだ？」

上を見ると空だけだった

下を見るとコンクリートと修学旅行の荷物二人分と

直人「すゝすゝ」

寝ている直人がいた

雅之「起きろ」

そして俺は直人を起こした

直人「うゝん・・・あと30分・・・」

雅之「起きろ」

ペシペシ

顔を叩いてみた

直人「やめてよゝあと29分だけ・・・」

雅之「なんで1分しか減ってないんだよ・・・」

クソお・・・

起きないこつなったら！

雅之「起きろ！」

蹴った・・・

直人「うわ！なに！」

雅之「はあ・・・やっと起きた・・・」

直人「え！僕なんか悪いことした？」

雅之「してねーよ、急だが良がどこにいるかわかるか？そして、ここどこかわかるか？」

いきなりの質問で直人もびくりしながら考えていた

そして自分のカバンを見つけてパソコンを出して調べ出したが・・・

直人「ダメだね、インターネットも通じないし調べようもない、僕は良がどこにいるかなんて知らないよ、それから、ここがどこだかわからないでも今いるところは多分何かのビルの屋上とかだと思う」

そう言った

俺は考えた

雅之「うーん・・・どうしようか」

直人「とりあえず荷物を持ってこのビルからどうするか」

そういつて重い荷物を持って屋上のドアをあけて俺たちはビルから出た

直人「うわー人がいっぱい・・・」

雅之「ほんとだなー」

外に出たら人でいっぱいだった

はじめは東京かどっかだと思ったが・・・

雅之「電気自動車しか走ってないぞ！」

直人「なんてエコな世界なんだ・・・」

走っている車すべてが電気自動車だったから東京じゃないことがわかった

俺たちがいた世界はガソリンと電気車が走っているがその割合は8：2ぐらいだ

それにくらべてこの世界は0：10圧倒的だった

直人「とりあえずほかの人に聞いてみようか」

雅之「そうだな」

そう言っただけ俺たちは二人はほかの人に聞いてみた

俺はあまり他人の人と話すのが好きではないので直人に任せた

直人「あの～すみません、ここの世界の文字ってなんていう文字なんですか？」

街の人A「ここの文字はこの世界の名前と一緒にミッドチルダのミッド語が使われているのよ」

直人「ありがとうございます」

そういつて直人がこっちに来た

雅之「なんかわかったか？」

直人「うん、ここはミッドチルダって言ってミッド語が使われているんだけど僕はミッド語っていつのがよくわからなくて・・・」

雅之「そうか、ありがとな」

ミッド語か・・・

そんなことより俺たちは住むことがないことに気づいた

雅之「そうだ！誰かに泊めてもらおう！」

直人「待つてよ！絶対誰も泊めてくれないよ！」

雅之「そうか、ならホテルにしよう、大丈夫だ、俺がなんとかしてやる！」

そういつて俺は悪どい笑顔で答えた

直人「なんか不安なんだけど・・・（ボソ）」

雅之「なんか言ったか？」

直人「いや別に何も言ってないよ！！」

雅之「そうかならいいや」

そういつて雅之はあるものをカバンから出した
それは金！

直人「なんで金を持ってるんですか！しかも1kgくらいあるよ！」

雅之「金があればなんでもできるとサバイバルで学んだ」

そっぴやこの人サバイバル生活してたんだったね

雅之「そっぴや最近の金って確か1kg4,000,000ぐらいで売れるんだよね」

そっぴって宝石屋らしきところに一人でいった
そして10分くらいしてから

雅之「おゝい5,000,000なんちゃら貰ったぞ」

直人「これならホテルに泊まれるね」

雅之「せっかくなんだこんなに金があるし、ホテルに泊まろう！」

直人「そうだね！」

とっってホテルに泊まって俺たちは一週間この世界のことを聞
いていた

そして図書館が見つかったので俺たちはそこに行って言葉を調べよ
うとした

俺たちは図書館にはいつて中に入ると

雅之「あれ？なんでこんなところに良がいるんだ？」

良が居た・・・

良「へ？」

そう言って俺は方をみた

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！って一週間しかたってないんだけどね」

俺たちは親友と再開した

第4章 ミッドチルダでなんでも屋！（前書き）

アンケートの結果で

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でリリなのに乱入に決定いたしました

第4章 ミッドチルダでなんでも屋！

俺たちは図書館にはいつて中に入ると

雅之「あれ？なんでこんなところに良がいるんだ？」

良が居た・・・

良「へ？」

そう言つて俺は方をみた

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！って一週間しかたってないんだけどね」

俺たちは親友と再開した

く現在く

直人「という感じに一週間過ごしてました」クソ！なんで俺の時と直人との対応が違うんだ！」ってどうしました？」

良「俺がほかの人に聞いたら「あなた頭大丈夫ですか？」とか住「いい病院してますよ、そこを右に曲がって・・・とか「おじちゃんどっかつたの？」とかなんかかわいそうな目で見られましたのに！」

良は悔しそうに机に頭をつけて机をグーで叩いていた

雅之「当たり前だ、お前どうせ」「ここはどこですか?」「って言ったんだろ?」

良「なんでわかったんだ?」

雅之「わかりやすいし、何よりバ力だから」

良「どうせバ力ですよ・・・」

良は図書館の橋で三角座りした

雅之「で、どうすんだ?三人集まっても何も変わらないぞ・・・」

良「何を言うか!」

直人「復活早!」

良「やっぱり三人あつまったらあれをするしかないだろ?」

そう言つて良はニカツとして言つた

良「なんでも屋をするしかないだろ!」

雅之「やっぱりそうだな、俺たちの転天職だったし」

直人「そうだね、僕も賛成だよ」

良「金は雅之が持つてるしとりあえずマンション借りてやるか」

そう言つて良は図書館から出た

雅之「俺の金が・・・orz（涙）」

良が出て行つたあと雅之は泣いていた

直人「良は自由人だからしょうがない我慢しよ」

雅之「そうだな・・・しょうがない・・・しょうがないんだ・・・」

雅之は直人と一緒に図書館をでた

管理人A「あの・・・私は・・・」

管理人は急なことでおどおどしていた

（3日間後）

良「なんでも屋開店！」

直人・雅之「・・・いえい・・・」

良「なんだなんだ？テンション低いな！もつと「いえええええい！」
みたいな感じでやれよ」

直人「いや無理だよ・・・良のせいだよ3日間僕たちに手続きさせたりいろいろ準備をさせたりしたの良じゃん・・・」

雅之「疲れた・・・なんだよ俺なんかずっと荷物もったり運んだりさせてたのにお前は！」

直人と雅之はパシリ活動をさせられぐったりしていた

良「何を言う！俺はずっと歩いてこの街を探索して足が痛かったんだぞ！」

直人・雅之「知ら（ないよ！）ねーよ！」

良「まあそれは置いておいて」

直人・雅之「置いてお（かないでよ！！）くなよ！」

良「なんでも屋を開店したが仕事があるまで自由だ！」

雅之・直人「よし寝（よう）る！」「すみませーん」orz

二人が寝ようとしたとき客がきた

良「どうしたんだ？」

？「なんでも屋っていうのが出来たって聞いたんで依頼にきました」

良「名前は？」

アリス「私の名前はアリス・カリスタです、アリスって読んでください」

良「俺は赤城良だ、良って読んでくれあっちの二人は」

二人に自己紹介をしてもらおうと思い二人の方をむいた

直人「僕の名前は相澤直人です直人ってよんでね」

雅之「俺の名前は大原雅之、雅之って読んでくれたらいい」

二人の自己紹介が終わったあと依頼を聞いた

依頼はオレオレ詐欺にあったアリスのおばあちゃんを助けて欲しいとのこと

いきなりハードだな・・・

良「おつしやるか！直人そのばあちゃんのことや周りのこと詐欺のことを調べてくれ」

直人「もうやってるよ！」

そういつてすぐに調べてくれた

詐欺のグループはヤクザのグループで詐欺などで勢力を伸ばしているらしい

一様アリスを家に返して俺たちは実行の準備をしている

良「俺たちって運が悪いな」

そう言いながら刀を降って言いた

雅之「そうだな最近やったことがあることをまたやるんだから」

雅之はスナイパーと爆弾をいじっていた

直人「よし、作戦は僕がヤクザグループの建物にハッキングして停電を起こす、そのあと良が襲撃をして良が騒ぎをお越している間、

雅之はそれに注意しながら外から援護射撃、僕は指揮する、目標はヤクザグループを壊滅状態と、詐欺をした人間すべてにされた側の人間に賠償金を払う、これでいい？」

雅之「相変わらず顔に似合わずえげつないことするな・・・」

直人「そうかな？」

良「よし実行は夜だ！それまで寝よう！」

夜になるまで三人で寝た

そして作戦実行の夜になり

組織の入口から100m離れたところに立ち二本の赤い刀を構えている良

500m離れたビルで暗専用スナイパーを構えている雅之とパソコンでハッキングの準備をしている直人

全ては整った！

良　いくぞ！

インカム越しで話す良

良・直人・雅之　　ミッションスタート！！

俺たち、なんでも屋開店初めての仕事いくなが始まった！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5009ba/>

三人のHawk

2012年1月14日17時51分発行